

ひとりにしない！子育て・介護

生活者ネットワークの 市議会通信



市民の声を、私たちが市政へ届けます

市議会議員

後藤ゆう子

市議会議員

かとう涼子

だれも取り残さないまちづくりへ！ 生活者ネットの政策が、一歩前進

11 住み続けられる
まちづくりを



●ひきこもり地域支援センターが、今年7月にいよいよ開設！

相談支援の拠点となるセンターが、旧谷戸高齢者在宅サービスセンター跡地に開設します。居場所づくりや家族セミナーに加えて、当事者と支援者をつなぐネットワークづくりを担います。

●まちなかベンチの設置で、安心して快適に歩けるウォークアブルなまちへ！

未利用市有地や、都市計画道路の残地等を活用してベンチが設置されます（年間5カ所程度）。また民間事業者の協力により、集合住宅や大規模店舗の沿道等にもベンチの設置が進められます。

●はなバスの通れない地域に、ワンボックスカーを使った実証運行を実施

向台町・南町・柳沢の公共交通空白地域と田無駅北口とを結ぶ、新たな移動手段の実証運行が下半期に実施されます。高齢化の進む地域で、多くの方々に活用いただけることを期待しています。

●北杜市との間で、森林整備によるカーボン・オフセット事業がスタート！

西東京市の友好都市である北杜市の森林を整備することで、CO₂吸収量の増加を図り、本市より排出される温室効果ガスの一部を相殺（カーボン・オフセット）します。また、子どもを対象とした森林整備や木工体験など、森と生活のつながりを学ぶ環境学習も実施します。

13 気候変動に
具体的な対策を



ゆう子と涼子の「控室放談」

学校給食が提供できない？！ いまこそ委託現場の労働環境を見直そう！

涼子 ● 碧山小と明保中の学校給食が、新学期から提供できなくなっているよ。

ゆう子 ● これまで調理を受託していた事業者が、今年に入ってから急に契約を辞退。その後、50社に当たったものの新しい委託先が見つけれずや。なんとか外注弁当は手配できたとはいえ……まさに異常事態。

涼子 ● 契約辞退の理由は、去年の秋、立て続けに異物混入

事故を起こした責任からだということけれど、古くなった調理機器を安全点検も不十分のまま使わせてきたのだから、教育委員会の責任は重いよ。

ゆう子 ● 調理室の設備は老朽化しているし、調理の仕事はただでさえ過酷なのに、給食室にはエアコンも設置されてへんし、ほんま申し訳ない気持ちやで。

涼子 ● その問題は、議会でも繰り返し取り上げられてきたよね。さらに、中学校と小学校の給食を2度に分けて作るから、現場は刻みスケジュール。私は、そうした過酷な労働環境も、事業者の撤退を招いた要因の一つじゃないかと思ってる。

ゆう子 ● 事業者はそんなこと口にできひんやろうけどね。いまはどこもかしこも人手不足。人を大切にしてない職場に、人は定着しないよ。市はこれまでいろんな直営サービスを手放してきたけれど、このままだと近い将来、受託先が見つからなくなるかもしれない。これを機に、委託のあり方や委託先の労働環境を見直すべきやわ。

涼子 ● そうだね。もつと言えば、市は調理や清掃などの直営サービスを、一定程度残すべきだと思

う。今回の件で、私たちのくらしを支える現業労働の大切さを、改めて痛

感したね。温かくて栄養のある給食が、一日も早く再開されますように！

8 働きがいも
経済成長も





後藤ゆう子の 議会質問から

◎市民農園も農地も残そう！活かそう！

自分で育てた野菜を食卓に乗せることに喜びを感じる、あるいは土に触れ農作業に親しみたいという市民が増加しています。西東京市が開設する市民農園は3園あり、倍率は2～3倍と人気です。さらに2018年に都市農地の貸借の円滑化に関する法律が施行され、農業者が市民農園を開設しやすくなり9園できました。農地が保全され、市民ニーズにも応えられ歓迎すべきことです。今後も市営の市民農園の存続を求め、農業者が開設しやすい補助制度などを提案し、市民益につながる「農あるまちづくり」を応援していきます。

◎携帯トイレは実際に使用してみて

大地震で建物の倒壊などで死亡するよりも、避難所等で体調を崩し亡くなる災害関連死の方が多いという実態があります。被災時にトイレの使用ができなくなり、体調を崩すことがないように携帯トイレの備蓄は重要です。市は平時からの備えの見直しや防災意識の向上を目的に、各世帯に携帯トイレ15回分と啓発リーフレットを配布します（来年1～3月予定）。届いたら、そのまま備蓄用にとっておくのではなく、実際に使用してみることが重要です。

かとう涼子の 議会質問から



◎ヤングケアラーと その家族を支えられる地域へ

大人が担うような家事や介護を、日常的に担っているヤングケアラー。現在、行政が把握している数は40名。しかし、家族や本人がサポートを拒み支援につながらないケースもあります。

今年度は新たに、全校アンケート調査が実施されるため、支援の必要な児童生徒がさらに可視化されることになります。

一人でも多くのヤングケアラーが、安心して相談できる大人を見つけられるよう、地域と一体となった支援体制の構築を求めました。

◎公園遊具を壊れたままにしないで！ 予防保全型の施設整備へ

「立ち入り禁止」のテープでぐるぐる巻きにされた遊具が、あちこちの公園で見られます。新年度予算では、公園遊具等の維持補修に関する費用が、大幅に増額されました。すでに使用中止の約10件に加え、緊急度が高いとされる約70件分の遊具の修繕費が確保されることがわかりました。

壊れてから直す事後対応型から、予防保全型の施設整備へと切り替えが進むことを期待しています。

議会 TOPICS

混乱が続いた3月議会

——幹部職員に対する決議を全会一致で可決

止まって、進んで、また止まり…。まるで各駅停車のようだった3月議会。開会後に発覚した給食調理の契約辞退問題で、審査は停止。予算を訂正した後も、田無三中の建替えに対する執行部の答弁訂正で審査は混乱し、市長、教育長は謝罪を繰り返した。

庁内連携の不徹底で、事後処理に膨大なエネルギーが費やされ、行政不信を招いているのは非常に残念。市議会として幹部職員に対し、職責を自覚した職務遂行を求める決議を全会一致で行った。

▶香害を学ぶ展示会に参加



▶イスラエル軍元兵士ダニー・ネフセタイさんの講演会。平和な社会のつくり方を学びました



◀「だがしの日子ども縁日」でボランティア



生活者ネットワーク 3つのルール

選挙はカンパとボランティアで行います。

議員はローテーション。職業化、特権化しません。

議員報酬は市民の活動資金として使い、お金の流れは公開します。

発行責任者：後藤ゆう子（市議会会派：生活者ネットワーク代表）

〒202-0015 西東京市保谷町6-25-1-102（会派事務所）

TEL：042-453-4121 FAX：042-410-0014

発行日：2025年4月18日

nishitokyo@seikatsusha.net

